

2024年度

K 1

国 語

人文社会科学部（社会学科，言語文化学科）

2月25日（日） 教育学部（学校教育教員養成課程）

【前期日程】

【音楽教育・美術教育・保健体育教育専修は除く】

15：20～16：40

グローバル共創科学部

## 注 意 事 項

### 試験開始前

- 1 監督者の指示があるまで，問題冊子，解答用紙に手を触れてはいけません。
- 2 監督者の指示に従って，全部の解答用紙（4枚）に受験番号を記入しなさい。

### 試験開始後

- 3 この問題冊子は，9ページあります。はじめに，問題冊子，解答用紙を確かめ，枚数の不足や，印刷の不鮮明なもの，ページの落丁・乱丁があった場合は，手をあげて監督者に申し出なさい。
- 4 解答はすべて解答用紙に記入しなさい。
- 5 文字数制限のある解答用紙の記入については，下記の点に留意すること。

<ul style="list-style-type: none"><li>・書き出しは，一マスあけない。</li><li>・句読点はそれぞれ一マスとする。</li><li>・小さな文字「っ」「ゃ」「ゅ」「ょ」は一マスで使う。</li></ul>
---
- 6 問題は，声を出して読むてはいけません。
- 7 各問ごとの配点は，比率（％）で表示してあります。

### 試験終了後

- 8 問題冊子は，必ず持ち帰りなさい。

1

次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。(配点六〇%)

ソクラテスの不知

著作権の関係上、公表しません。

著作権の関係上、公表しません。

著作権の関係上、公表しません。

著作権の関係上、公表しません。

## 著作権の関係上著公表し ません。

(納富信留「知らないということ ソクラテスの哲学を究める」)

(注) ○プラトン——ソクラテスの弟子でアリストテレスの師。ソクラテスの死後、対話篇を執筆し、ソクラテスの思想を伝えた。

○ソフィスト——古代ギリシアで徳を教えたとされた弁論家・教育者。

○アゴラ——古代ギリシアの都市国家で集会を行った広場。

○アポリア——問題が解決できない状態のこと。哲学的な難問。

問一 傍線部(ア)のカタカナの部分に漢字に改めなさい。

問二 傍線部A「私たちが日常で軽く発する」知る、知らない」という言葉とはまったく異なる」とあるが、ソクラテスの「不知」の特徴を説明しなさい。

問三 傍線部B「この点をきちんと理解しないと、彼に対して不当な非難が生じる」とあるが、筆者はソクラテスについて、どのような点を理解する必要があると述べているか、説明しなさい。

問四 傍線部C「強い条件」とあるが、この内容について述べている箇所を本文中から二十五字以内で抜き出しなさい。

問五 傍線部D「反日常的な態度」とあるが、なぜ「知らない」と認めることが「反日常」といえるのか。本文の内容に即して簡潔に説明しなさい。

問六 筆者はソクラテスを例に、「知らない」と認めることの困難と重要性を説いている。自分が知っていると思いついていただけだと気付いた事例を挙げながら、「知る」ということについて、あなたの意見や考えを述べなさい。三〇〇字以内でまとめなさい。

次の文章を読んで、後の問いに答えなさい(配点二〇%)

昔、ならの帝につかうまつる采女ありけり。顔容かたちいみじうきよらにて、人々よばひ、殿上人などもよばひけれど、あはざりけり。そのあはぬ心は、帝をかぎりなくめでたき物になむ思ひたてまつりける。帝召よしてけり。さて後あも召さざりければ、かぎりなく心憂あしとおもひけり。夜昼心にかかりておほえ給ひつつ、恋しくわびしうおほえ給ひけり。帝は召よししかど、こととおほさず。さすがにつねにはみえたてまつる。なほ世Aに経まじき心ちしければ、夜みそかに猿沢の池に身を投げてけり。かく投げつとも帝はえしろしめさざりけるを、ことBのついでありて人のこしめしてけり。いといたうあはれがり給ひて、池のほとりにおほみゆきし給ひて、人々に歌よませ給ふ。柿本の人麿、

わぎもこのねくたれ髪を猿沢の池の玉藻とみるぞかなしき

とよめる時に、帝、

猿沢の池もつらCしな吾妹子がたまもかつかは水ぞひなましE

とよみ給ひけり。さてこの池には、墓せさせ給ひてなむ帰らせおはしましけるとなむ。

『大和物語』による

(注) ○采女——天皇の食事など身の回りの庶事を専門に行った女官。うねめ。

○猿沢の池——現在の奈良市にある池。

問一 傍線部(a)～(c)の語の文中における意味を書きなさい。

問二 傍線部(a)～(e)の中から性質の異なる助動詞を一つ選び、記号で答えなさい。

問三 空欄  の中に入る語を次の(i)～(h)の中から一つ選び、記号で答えなさい。なお、選択肢は終止形で示してあります。

(i) 宣ふ

(z) 奉る

(h) 聞こゆ

(に) 奏す

問四 波線部Aを現代語訳しなさい。

問五 波線部Bについて、誰が、どういうことに対してこのように思ったか、わかりやすく説明しなさい。

次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。設問の都合で返り点と送りがなを省略したところがあります。(配点二〇%)

高陽応將<sup>ニ</sup>為<sup>ラント</sup>室家<sup>ヲ</sup>。匠<sup>ハ</sup>対<sup>ヘテ</sup>曰<sup>ハク</sup>、未<sup>ダ</sup>可<sup>ナラ</sup>也。木尚<sup>ホ</sup>生、加<sup>フレバ</sup>塗<sup>ドロヲ</sup>其上<sup>ニ</sup>、必<sup>ズ</sup>將<sup>ニ</sup>撓<sup>タワマント</sup>。以<sup>テ</sup>生<sup>ヲ</sup>為<sup>ス</sup>室、今雖善、後將必敗。高陽応曰<sup>ハク</sup>、縁<sup>トレバ</sup>子之言<sup>ニ</sup>、則室不敗也。木益<sup>ハ</sup>枯<sup>ルレバ</sup>、則勁<sup>チツヨク</sup>、塗益<sup>ケバ</sup>乾<sup>チシ</sup>、則輕<sup>シ</sup>。以<sup>テ</sup>益<sup>ヲ</sup>勁<sup>ニ</sup>、任<sup>シ</sup>益<sup>ヲ</sup>輕<sup>ニ</sup>、則不敗。匠人無<sup>ク</sup>辞<sup>シテ</sup>而対<sup>フル</sup>、受<sup>ケテ</sup>令<sup>ヲ</sup>而為<sup>ル</sup>之。室之始<sup>メテ</sup>成也。善<sup>シ</sup>、其<sup>ノ</sup>後<sup>ニ</sup>果<sup>タシテ</sup>敗<sup>レタリ</sup>。高陽応好<sup>ハ</sup>小<sup>ミミテ</sup>察<sup>ヲ</sup>、而<sup>ル</sup>不<sup>ル</sup>通<sup>ゼ</sup>乎大理<sup>ニ</sup>也。

〔呂氏春秋〕による

(注) ○高陽応——春秋戦国時代・宋の大夫の名。

○匠——大工職人。

○生——生乾き。

○敗——崩れる。

○勁——強い。

問一 傍線部①を書き下し文にしなさい。

問二 傍線部②について、具体的に説明しなさい。

問三 傍線部③を現代語訳しなさい。

# 正解・解答例

<p>教科・科目名</p>	<p>国語（前期日程試験：令和6年度） 1 / 2</p>	<p>問題番号</p>	<p>K 1</p>
<p>対象学部・ 学科(課程)等</p>	<p>人文社会科学部（社会学科、言語文化学科）、教育学部（音楽教育専修、美術教育専修、保健体育教育専修を除く各専攻・専修）、グローバル共創科学部</p>		
<p style="text-align: center;">1</p> <p style="text-align: center;">60%</p> <p style="text-align: center;">採点時の配点 120点</p>	<p>問1 (ア) 自認 (イ) 被る (ウ) 射程 (エ) 看過 (オ) 軌跡</p> <p>問2 古代ギリシア人が重視した人間の倫理や価値をめぐる「徳」のみを対象にするとともに、それらについて何も知らないのではなく、「それが何であるか」という最重要な点だけを「知らない」というのがソクラテスの「不知」である。</p> <p>問3 ソクラテスは、あらゆる角度から検討したうえで「知らない」という認識に至っていたが、それでもなお、正しい考えや答えなどないということを前提にはせず、今度こそ納得のいく答えに近づくことができるかもしれないと期待して対話したという点。</p> <p>問4 真実の命題を持つことの原因や根拠を説明できること（24字） （部分点 真実であること、根拠を説明する必要があること（22字））</p> <p>問5 おおよそ間違っていないと思っていることは「知っている」と見なして過ごす日常生活は、厳密な「知る」の定義を適用すると立ち行かなくなるから。</p> <p>問6（解答例） 皆から敬遠されがちなクラスメイトがいた。ふとしたきっかけで、彼と話すようになり、複雑な家庭事情や彼の心の内を知った。学校ではとっつきにくく人付き合いもよくない印象であった彼と、改めて知った彼は全く異なっていた。私は勝手に決めつけていただけで、決して彼のことを知っているわけではなかったのだ。その時改めて人を知るということは難しいと思った。先入観や偏見を持たずに人と接することは難しいし、持っているのは悪いことではない。ただ、それにとらわれず、自分の「知っている」を疑うことが重要だ。人を知るとは、自分自身が「知らない」という前提に立つことで初めて可能になるのではないか。（286字）</p>		



## 採点・評価基準(具体的基準)

教科・科目名	国語 (前期日程試験：令和6年度)	問題番号	K1
対象学部・学科(課程)等	人文社会科学部(社会学科、言語文化学科)・教育学部学校教員養成課程(音楽教育専修、美術教育専修、保健体育教育専修を除く各専攻・専修)・グローバル共創科学部		
出題のねらい	<p>① 現代的な評論文を読んで、基礎的な知識、文脈を把握する読解力、論理的な思考力と基礎的表現力をみる。</p> <p>② 古文の文法および語法の知識に基づき、適切な形式での理解力・表現力をみる。</p> <p>③ 漢文の文法および語法の知識に基づき、適切な形式での理解力・表現力をみる。</p>		
採点基準 (点数は200点満点の場合)	<p>① 配点60%(120点) 問1 20点(4点×5) 問2 15点 問3 15点 問4 10点 問5 20点 問6 40点</p> <p>② 配点20%(40点) 問1 12点(4点×3) 問2 5点 問3 5点 問4 9点 問5 9点</p> <p>③ 配点20%(40点) 問1 10点 問2 15点 問3 15点</p>		

## 採点・評価基準(具体的基準)

教科・科目名	国語 (前期日程試験：令和6年度)	問題番号	K1
対象学部・ 学科(課程)等	人文社会科学部(社会学科、言語文化学科)・教育学部学校教員養成課程(音楽教育専修、美術教育専修、保健体育教育専修を除く各専攻・専修)・グローバル共創科学部		
出題のねらい	<p>① 現代的な評論文を読んで、基礎的な知識、文脈を把握する読解力、論理的な思考力と基礎的表現力をみる。</p> <p>② 古文の文法および語法の知識に基づき、適切な形式での理解力・表現力をみる。</p> <p>③ 漢文の文法および語法の知識に基づき、適切な形式での理解力・表現力をみる。</p>		
採点基準 (点数は200点 満点の場合)	<p>① 配点60%(120点) 問1 20点(4点×5) 問2 15点 問3 15点 問4 10点 問5 20点 問6 40点</p> <p>② 配点20%(40点) 問1 12点(4点×3) 問2 5点 問3 5点 問4 9点 問5 9点</p> <p>③ 配点20%(40点) 問1 10点 問2 15点 問3 15点</p>		